

## 医療費の引き下げについて

上山市の平成 25 年度一人あたり医療給付費は、一般分が県内 13 市で 1 位、全県でも 2 位と非常に高くなっています。13 市で一番低い新庄市よりも年間約 6 万円も医療費がかかっている計算になります。なぜ上山市の医療給付費が高いのか、身近に医療機関が多く受診しやすい、高齢化率が高い、保健・予防活動が不十分などの様々な要因が考えられますが、本市においても研究機関等との連携による分析が始まっているとお聞きしています。本市の医療費削減につながる有益な調査になるようお願いしたいと思います。

さて、県及び全国の傾向と同様に、本市においても肺がんや肺炎による死亡が増えています。とりわけ高齢者の肺炎が問題になる中、高齢者の肺炎を防ぐ上で、肺炎球菌ワクチンの接種が有効だといわれています。かつて、北海道の旧瀬棚町では町が率先して高齢者肺炎球菌ワクチン摂取の費用助成や啓発を強化することによって国保一人あたり医療費が道内一高かった町に大きな効果をもたらし、劇的に医療費を減らした経験を持っています。その後、高齢者肺炎球菌ワクチンの定期接種化となり、当市においても一人 4 千円、半額程度の助成が行われており、対象者の半数がワクチン接種を行っているとお聞きしています。

旧瀬棚町のような劇的な効果が当市でも示されるにはもう少し時間がかかると思われますが、それでも肺炎の人口 10 万対死亡率が平成 23 年の 275.4 から平成 25 年には 169.7 まで減少したと伺っています。肺炎・肺がんを減らし、健康寿命を伸ばし、さらに医療費を削減するために、高齢者の肺炎球菌ワクチンの費用助成を増額したり、対象者すべての人が受けられるような啓発の強化、喫煙者を減らしていくような政策を講じるべきと考えます。